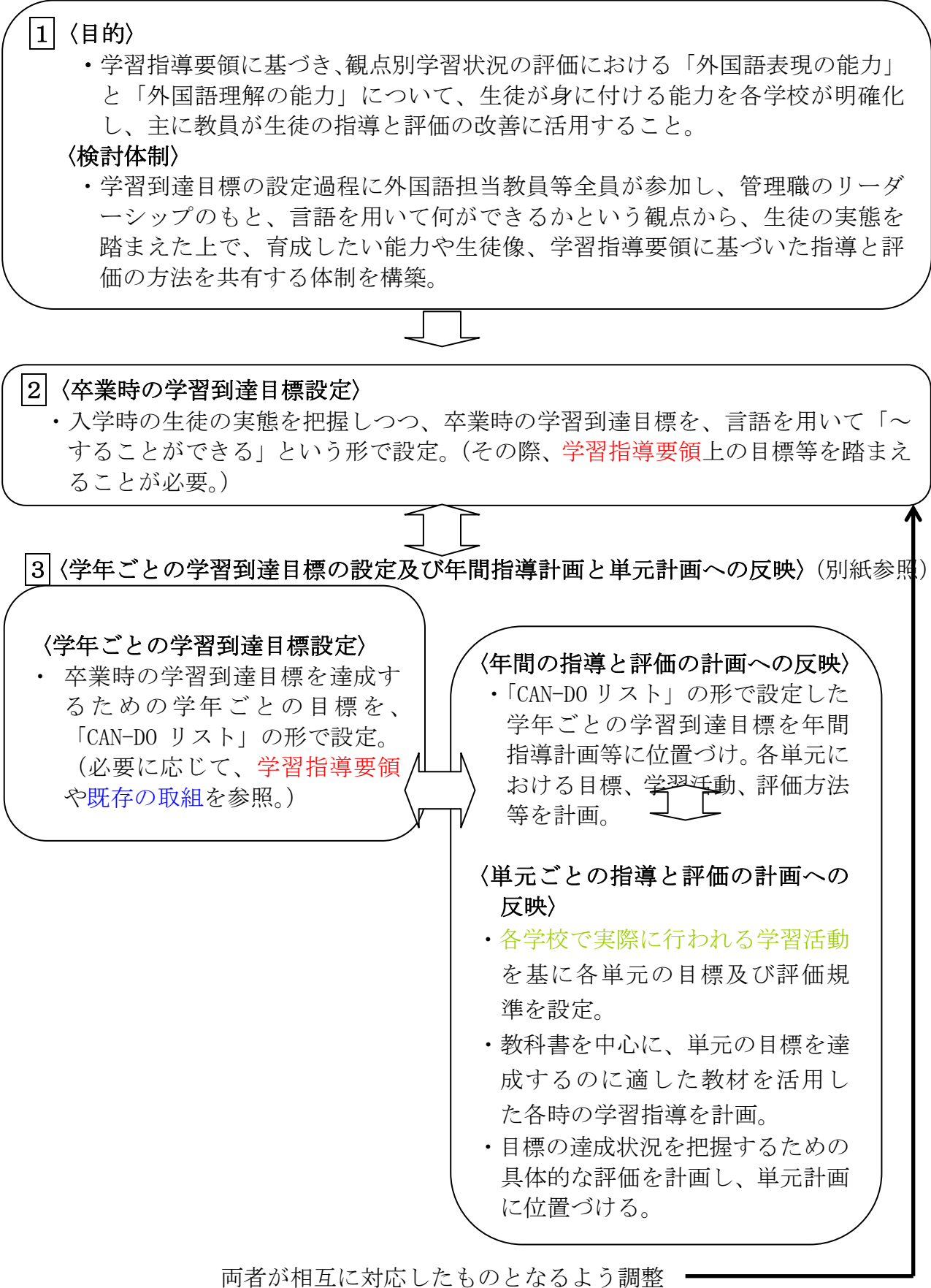


各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定
フローチャート（第二次案）





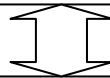
授業の実施

4 〈授業と評価〉

- ・ 言語を用いて何ができるようになるかという観点から計画した授業を実施。！単元の目標を意識して授業を実施することが重要！
- ・ 観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、評価の計画に従い、学習活動の特質等に応じて、生徒の目標達成状況を的確に評価できる方法で実施。
評価方法例：多肢選択等の筆記テストのみならず、面接、エッセー、スピーチなどのパフォーマンス評価、観察等
- ・ 単元等の区切りの中で適切に設定した時期において評価。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめる。

(注) 観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点を併せて総合的に評価する。

※ 生徒による自己評価も別途、実施することが可能



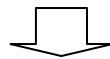
5 〈達成状況の把握〉

各単元の目標や学年ごとの学習到達目標の達成状況を把握し、指導や評価の改善に活かす。必要に応じて翌年度の教科書の採択に活かす。



6 〈学習到達目標の見直し〉

学年末に、設定した卒業時及び学年ごとの学習到達目標が適切であったかどうかを検討し、必要に応じて見直す。



2 〈学習到達目標の設定〉に戻る